

B-34 樹脂加工布中の遊離ホルムアルデヒド含有量と防しわ・防縮性

日本女大家政 ○増子富美 青木千賀子 中西茂子

目的 最近の市販樹脂加工布において、相当な量の遊離ホルムアルデヒドが検出されたものがかなりの数あり、したが、これら遊離ホルムアルデヒド量と防しわ・防縮性との関連性の有無、また、市販樹脂加工布における必要以上過剰な樹脂加工剤の付着の可能性について検討を行なった。

方法 市販の各種樹脂加工布及び同じ方法に従って、グリオキザール、メチロールメラミン、尿素樹脂加工剤の各々で樹脂加工を施した綿・レーヨンの同じ標準白布の遊離ホルムアルデヒド量、防しわ収縮率及び織物密度、糸の太さ、捻り、糸の構成等の測定を行なった。遊離ホルムアルデヒド量の定量は、第25回日本家政学会総会において発表した方法、その他の測定は、それぞれの方法に従った。また、サンプルの一部を洗濯し、洗濯前後の防しわ性の比較も行なった。

結果 防しわ・防縮性に因りては、樹脂加工の他、織物の構成上の諸因子が因りて複雑であるが、これらを考慮しても、樹脂加工布からの遊離ホルムアルデヒド量と防しわ・防縮性との間には、繊維別にそれぞれ傾向がみられた。調製した樹脂加工布のホルムアルデヒド量、防しわ・防縮性、又、それらのソーゼンクヤ洗濯による変化の様相については、3種類の樹脂加工剤のうち、メチロールメラミンと尿素樹脂加工剤によるものは、似た態度を示し、グリオキザールのみ異なっていたが、これら3種類により調製した樹脂加工布により示された種々の結果は、市販の各種繊維の樹脂加工及び加工後の後処理の状況を一助となるように思われる。